

四半期報告書

(金融商品取引法第24条の4の7第1項に基づく報告書)

(第52期第2四半期)

自 平成26年4月1日

至 平成26年6月30日

興研株式会社

東京都千代田区四番町7番地

(E02396)

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- | | |
|---------------------|---|
| 1 主要な経営指標等の推移 | 1 |
| 2 事業の内容 | 1 |

第2 事業の状況

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 事業等のリスク | 2 |
| 2 経営上の重要な契約等 | 2 |
| 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 | 2 |

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- | | |
|-------------------------------------|---|
| (1) 株式の総数等 | 4 |
| (2) 新株予約権等の状況 | 4 |
| (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 | 4 |
| (4) ライツプランの内容 | 4 |
| (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 | 4 |
| (6) 大株主の状況 | 5 |
| (7) 議決権の状況 | 5 |

- | | |
|---------------|---|
| 2 役員の状況 | 5 |
|---------------|---|

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

- | | |
|------------------------------------|----|
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 7 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 9 |
| 四半期連結損益計算書 | 9 |
| 四半期連結包括利益計算書 | 10 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 11 |

- | | |
|-------------|----|
| 2 その他 | 15 |
|-------------|----|

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年8月8日
【四半期会計期間】	第52期第2四半期（自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）
【会社名】	興研株式会社
【英訳名】	KOKEN LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 村川 勉
【本店の所在の場所】	東京都千代田区四番町7番地
【電話番号】	03（5276）1911
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 長坂 利明
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区四番町7番地
【電話番号】	03（5276）1911
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 長坂 利明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第52期 第2四半期連結累計期間
会計期間		自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日
売上高	(千円)	3,515,614
経常利益	(千円)	103,704
四半期純利益	(千円)	29,966
四半期包括利益	(千円)	33,586
純資産額	(千円)	8,602,163
総資産額	(千円)	15,293,566
1株当たり四半期純利益金額	(円)	5.93
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	(円)	5.87
自己資本比率	(%)	56.0
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	603,515
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△342,239
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△172,523
現金及び現金同等物の四半期末残高	(千円)	2,143,723

回次		第52期 第2四半期連結会計期間
会計期間		自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日
1株当たり四半期純損失金額(△)	(円)	△17.06

- (注) 1. 当社は、第1四半期連結会計期間から四半期連結財務諸表を作成しておりますので、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度の経営指標等については記載しておりません。
2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
3. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、第1四半期連結累計期間より、子会社SIAM KOKEN LTD.の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成26年1月～6月）におけるわが国経済は、企業収益の改善や設備投資の持ち直し、そして雇用情勢や所得環境にも改善が見られるなど緩やかな回復基調で推移しました。

このような経済環境のもと、当社グループは対処すべき課題と捉える「クリーン事業の確立（KOACHテイクオフの実現）」及び「マスク関連事業の強化」等の取り組みを行った結果、売上高は35億15百万円となりました。

利益面につきましては、営業利益1億39百万円、経常利益1億3百万円、四半期純利益29百万円となりました。セグメント別の業績は以下の通りです。

（マスク関連事業）

災害対策用マスクの備蓄が一巡したことで、原子力発電所及び官公庁向けの需要は昨年比で減少しました。その一方で国内景気の回復にともなう民間製造業のマスク需要は増加傾向にあり、消費税増税前の駆け込み需要も一部商品で発生しましたが、第2四半期連結会計期間に入ってからが目立った落ち込みもなく受注は堅調に推移しました。

また、感染症対策用マスクは全国の保健所での採用率が7割となるなど、医療分野におけるシェア拡大が進んでいます。

これらの結果、当事業の売上高は31億22百万円となりました。

（その他事業／環境関連事業等を含む）

オープンクリーンシステム「KOACH」につきましては、宇宙航空研究開発機構JAXA様や京都大学iPS細胞研究所様など最先端の研究機関での採用に加え、民間製造業への納入も増加しております。なお、6月末現在の「KOACH」の物件情報数は1,000件を超え、今後の受注増が期待されます。

こうした「KOACH」事業の進展などにより、当事業の売上高は3億92百万円となりました。

昨年発売のスリープモード付きオープンクリーンシステムKOACH「フロアーコーチExp・Ezp」が、第44回（2014年）機械工業デザイン賞の最優秀賞（経済産業大臣賞）を受賞いたしました。「独創的な技術開発成果を基盤としてデザインによる企業独自のバランス解を創出している」と評されての今回の受賞は、「KOACH」事業の確立促進に大きく寄与するものと思われま

なお、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますので、前年同四半期との比較分析は行っておりません。

(2) 資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は152億93百万円となりました。主な内訳は、受取手形及び売掛金27億53百万円、有形固定資産75億58百万円であります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、66億91百万円となりました。主な内訳は、短期借入金20億円、長期借入金21億41百万円であります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、86億2百万円となりました。主な内訳は、利益剰余金74億16百万円であります。

なお、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますので、前連結会計年度との比較分析は行っておりません。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、21億43百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次の通りです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は6億3百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が1億円となったことと、売上債権の減少額6億24百万円及びたな卸資産の増加額2億円等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は3億42百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3億60百万円等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1億72百万円となりました。これは主に、配当金の支払額1億25百万円を行ったこと等によるものです。

なお、第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますので、前年同四半期連結累計期間との比較分析は行っておりません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2億68百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年8月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,104,003	5,104,003	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式 数100株
計	5,104,003	5,104,003	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日	—	5,104,003	—	674,265	—	527,936

(6) 【大株主の状況】

平成26年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
酒井 眞一	東京都練馬区	856	16.77
酒井 宏之	東京都杉並区	824	16.15
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2-2-1	244	4.79
酒井 香織	東京都杉並区	229	4.50
酒井 理絵	東京都杉並区	229	4.50
株式会社みずほ銀行 (常任代理人資産管理サービス信託 銀行株式会社)	東京都千代田区内幸町1-1-5 (東京都中央区晴海1-8-12晴海アイランドト リトンスクエアオフィスタワーZ棟)	227	4.47
久保井 美帆	東京都杉並区	226	4.43
酒井 春名	東京都練馬区	226	4.43
カブドットコム証券株式会社	東京都千代田区大手町1-3-2	218	4.27
伊藤 良則	神奈川県川崎市	190	3.74
計	—	3,472	68.04

(注) 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 45,200	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,056,800	50,568	—
単元未満株式	普通株式 2,003	—	—
発行済株式総数	5,104,003	—	—
総株主の議決権	—	50,568	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権の数20個)含まれております。

② 【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
興研株式会社	東京都千代田区 四番町7番地	45,200	—	45,200	0.89
計	—	45,200	—	45,200	0.89

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書に記載した事項を除き、異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

なお、当社は第1四半期連結会計期間より、四半期連結財務諸表を作成しているため、比較情報は記載しておりません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年1月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人A&Aパートナーズによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間
(平成26年6月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	2,143,723
受取手形及び売掛金	2,753,195
商品及び製品	441,052
仕掛品	502,387
原材料及び貯蔵品	396,251
繰延税金資産	172,991
その他	74,831
貸倒引当金	△3,000
流動資産合計	6,481,433
固定資産	
有形固定資産	
建物（純額）	1,481,169
機械及び装置（純額）	769,853
土地	4,809,351
その他（純額）	498,581
有形固定資産合計	7,558,956
無形固定資産	73,529
投資その他の資産	
繰延税金資産	176,064
保険積立金	830,986
その他	176,596
貸倒引当金	△4,000
投資その他の資産合計	1,179,647
固定資産合計	8,812,132
資産合計	15,293,566
負債の部	
流動負債	
買掛金	190,781
短期借入金	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	1,137,800
賞与引当金	89,000
役員賞与引当金	6,000
未払法人税等	20,332
その他	558,685
流動負債合計	4,002,599
固定負債	
長期借入金	2,141,500
役員退職慰労引当金	493,900
その他	53,403
固定負債合計	2,688,803
負債合計	6,691,402

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間
(平成26年6月30日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	674,265
資本剰余金	527,936
利益剰余金	7,416,704
自己株式	△74,612
株主資本合計	8,544,294
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	12,850
為替換算調整勘定	1,648
その他の包括利益累計額合計	14,499
新株予約権	43,370
純資産合計	8,602,163
負債純資産合計	15,293,566

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)
売上高	3,515,614
売上原価	1,907,158
売上総利益	1,608,455
販売費及び一般管理費	※ 1,469,441
営業利益	139,014
営業外収益	
受取手数料	4,433
その他	8,583
営業外収益合計	13,017
営業外費用	
支払利息	28,736
その他	19,590
営業外費用合計	48,327
経常利益	103,704
特別損失	
固定資産除却損	3,028
特別損失合計	3,028
税金等調整前四半期純利益	100,675
法人税、住民税及び事業税	14,000
法人税等調整額	56,708
法人税等合計	70,708
少数株主損益調整前四半期純利益	29,966
四半期純利益	29,966

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

		当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益		29,966
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金		2,614
為替換算調整勘定		1,004
その他の包括利益合計		3,619
四半期包括利益		33,586
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益		33,586
少数株主に係る四半期包括利益		—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
 (自 平成26年1月1日
 至 平成26年6月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	100,675
減価償却費	244,068
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,000
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	17,400
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△82,000
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△14,150
受取利息	△257
受取配当金	△1,923
支払利息	28,736
固定資産除却損	3,028
売上債権の増減額 (△は増加)	624,993
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△200,577
仕入債務の増減額 (△は減少)	46,010
その他	△49,853
小計	715,151
利息及び配当金の受取額	2,180
利息の支払額	△29,335
法人税等の支払額	△84,480
営業活動によるキャッシュ・フロー	603,515
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△360,535
有形固定資産の売却による収入	20,272
その他	△1,976
投資活動によるキャッシュ・フロー	△342,239
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	600,000
長期借入金の返済による支出	△613,400
配当金の支払額	△125,951
その他	△33,172
財務活動によるキャッシュ・フロー	△172,523
現金及び現金同等物に係る換算差額	△137
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	88,614
現金及び現金同等物の期首残高	1,652,808
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	402,300
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,143,723

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

1. 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、連結子会社SIAM KOKEN LTD.の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

2. 持分法適用の範囲の変更

該当事項はありません。

(追加情報)

当社は、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は、以下の通りであります。

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社

連結子会社の名称 SIAM KOKEN LTD.

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社SIAM KOKEN LTD.の決算日は9月30日であります。

四半期連結財務諸表の作成に当たっては、平成26年3月31日現在の四半期財務諸表を使用し、当四半期連結会計期間末との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

A満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

Bその他有価証券

a時価のあるもの

決算日前1か月の市場価格等の平均に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

b時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

② たな卸資産

A製品、仕掛品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

B商品、原材料

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

C貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物 7～50年

機械及び装置 9年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（5年）に基づいております。

③ 長期前払費用

定額法を採用しております。

④ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額に基づき計上しております。

③ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

④ 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

金利スワップのみで、特例処理の要件を満たしているため、特例処理によっております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段は金利スワップであり、ヘッジ対象は借入金であります。

③ ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの想定元本、利息の受払条件（利子率、利息の受払日等）及び契約期間がほぼ同一であり、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性評価を省略しております。

(5) その他四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 受取手形裏書譲渡高

当第2四半期連結会計期間
(平成26年6月30日)

受取手形裏書譲渡高 19,427千円

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次の通りであります。

当第2四半期連結累計期間
(自平成26年1月1日
至平成26年6月30日)

給料手当	376,912千円
研究開発費	268,482千円
賞与引当金繰入額	49,555千円
役員退職慰労引当金繰入額	48,300千円
役員賞与引当金繰入額	6,000千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

当第2四半期連結累計期間
(自平成26年1月1日
至平成26年6月30日)

現金及び預金勘定	2,143,723千円
現金及び現金同等物	2,143,723千円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年6月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年3月27日 定時株主総会	普通株式	126	25	平成25年12月31日	平成26年3月28日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	マスク 関連事業				
売上高					
外部顧客への売上高	3,122,719	392,894	3,515,614	-	3,515,614
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,122,719	392,894	3,515,614	-	3,515,614
セグメント利益又は損失(△)	1,483,847	124,608	1,608,455	△1,469,441	139,014

(注) 1. 「その他事業」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境関連事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,469,441千円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	5円93銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	29,966
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	29,966
普通株式の期中平均株式数(株)	5,053,360
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	5円87銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益調整額(千円)	-
普通株式増加数(株)	50,263
(うち新株予約権(株))	(50,263)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年8月7日

興研株式会社

取締役会 御中

監査法人A&Aパートナーズ

指定社員
業務執行社員 公認会計士 坂本 裕子 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 寺田 聡司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている興研株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年1月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、興研株式会社及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。